



# 井の頭公園の生きもの

井の頭

吉祥寺

鷹

33号  
2017年3・4月号

2017年(平成29年)3月1日

●編集・発行  
いのきちゃん編集委員会  
編集長 川井信良  
東京都三鷹市上連雀 1-12-17  
株式会社文伸 発行  
電 話 0422-60-2211  
FAX 0422-60-2200  
メール inokichi@bun-shin.co.jp

●協力  
東京都西部公園緑地事務所  
東京都井の頭自然文化園  
井の頭恩賜公園100年実行委員会  
NPO 法人みたか都市観光協会  
一般社団法人武蔵野市観光機構

●制作支援  
株式会社文伸 / ぶんしん出版

井の頭恩賜公園  
開園100周年まで

あと2か月

INFORMATION 2017年3~5月

## 井の頭自然文化園

●彫刻館特設展Art and the Zoo vol.3「西浦裕太作品展・カレライトコ」

- 期間：2017年2月14日(火)～5月14日(日)
- 時間：9:30～16:30(彫刻館の閉館時間)
- 場所：井の頭自然文化園 動物園(本園) 彫刻館B館

作品コンセプト(作者より)

動物は常に私にとって、見たことのない景色を見せてくれる窓であり、訪れたことのない地や時間に想像を開いてくれる扉です。そして私のつくるものは、彼らが連れて行ってくれた風景の断片であり、おしえてくれた物語の一場面でもあります。



「たどり着く頃には月の言葉もわかるようになっていた」

詳しくはホームページをご覧ください。http://www.tokyo-zoo.net/zoo/ino/index.html

## 井の頭恩賜公園

●都立井の頭恩賜公園100歳記念ウィークのお知らせ

井の頭恩賜公園では5月1日から1週間、「100歳記念ウィーク」として記念式典をはじめ様々なイベントを実施いたします。

月 日	主な記念行事
5月1日(月)	開園100周年記念式典 記念コンサート
5月2日(火)	100年実行委員会事業企画映画「PARKS」関連イベント
5月3日(水・祝)	武蔵野市による記念イベント
5月4日(木・祝)	地元大学生による記念イベント
5月5日(金・祝)	三鷹市による記念イベント
5月6日(土)	地元大学生による記念イベント
5月7日(日)	フィナーレイベント(ひやくさいくんデビュー等)

詳しくはホームページをご覧ください。http://www.inp.jp/index.html に載せます。

## 井の頭かんさつ会

●第143回「春の生きもの」 3月26日(日) 10:00～12:00

事前申し込みが必要です。詳細や申し込み方法はHP http://www.kansatsukai.net/ に載せます。

## 開園100周年記念出版 2017年4月下旬発売予定

ぶんしん出版

## 『井の頭公園100年写真集』

●A4判160頁(予定)

『井の頭公園100年写真集』は、100年前の井の頭公園の姿から戦前戦中戦後と変化してきた公園の歩みを貴重な写真や絵葉書で紹介する本です。特に、開園間もない頃の森と泉の楽園の姿や、戦前までの杉林に囲まれた深山のような趣きは、100年後のあるべき姿に示唆を与えるものと思われます。



開園間もない頃の井の頭公園

## 井の頭自然文化園の動物たちと飼育員 その13

オシドリ



と 高橋孝太郎さん



仲睦まじい夫婦を「おしどり夫婦」と呼ぶぐらいだから、きっと本物のオシドリは夫婦仲がいいに違いない、と思ったら大間違い。毎年12月ごろにペアになり、春に卵が産まれ、メスが抱卵している間こそオスは見守るけれど、ふ化直前には別行動。翌年に同じ2羽がペアになることはまれなのだとか。「じつはいいかげんな鳥なんです」と担当飼育員の高橋孝太郎さんは笑います。「夫婦だけじゃなくて、親子のつながりも希薄なんですよ」と高橋さん。生まれてすぐのころから、ひなは自らえさ場に行き行って食べます。大人の鳥にくっついて暖をとるときも、必ずしも母鳥に近づくわけではありません。よく言えば、子どものころから独立独歩、自立心旺盛です。

親に頼らず生きる生命力の強さは、脚力に現れています。他のカモはせいぜい10cmほどしかジャンプできませんが、オシドリはひなでも30～40cmは楽勝。もともと野生では木がうっそうと茂る森に暮らし、巣も高ければ地上10mの木のうろにあって、そこから飛び降りるところから、ひなの食探しが始まります。

自然文化園では観察しやすい高さに巣が設置されています。ひなの行動力が見られるのは5～6月ごろ。9月下旬には成鳥となり、オスは見事な羽に生え変わります。

小田原 潔 (おだわら みお) 編集者・ライター。フィールドは多摩。三鷹市在住。

## 井の頭公園の生き物たち その33 テナガエビとスジエビ

井の頭かんさつ会 田中 利秋 (たなか としあき) 井の頭かんさつ会代表。毎月自然観察会を開催。池の外来魚問題にも取り組み。



多数獲れる両種

## 復活する在来エビ

どちらもテナガエビ科に属しますが、テナガエビの「手」、つまり最大のハサミ脚はスジエビより明らかに長く、オスでは体長以上になります。オスはその長い「手」を、繁殖行動のときメスを囲い込むのに使います。アメリカザリガニの大きなハサミが5対の胸脚のいちばん前の脚なのに対し、テナガエビ科の「手」は2対目です。ザリガニは動物も植物もよく食べますが、テナガエビ科はほぼ肉食で、水生の小動物や、魚などの死骸を食べています。

十年余り前まで井の頭池にたくさんいたテナガエビとスジ

エビは、外来魚のせいで激減しました。オオクチバスもブルーギルもエビが大好物です。かいぼり25後の2014年と2015年は、神田川につながる「ひょうたん池」で見つかったテナガエビとスジエビはわずかでした。かいぼりで捕れた数が少なかったこと、それを再放流したのが上流のお茶の水池だったこと、そしてブルーギルが多数残ってしまったことなどが理由だと思えます。それが、かいぼり27後の2016年には、ひょうたん池でテナガエビが1200匹以上、スジエビも900匹以上、調査用のワナに入りました。生息数が大きく回復したのです。

メスが卵を放すとき孵化する幼生は、しばらくプランクトン生活を送ります。どちらのエビにも、幼生が海まで降って成長し再び川を遡る「両側回遊型」と、一生を池で暮らす「陸封型」があり、異なる型は交雑しないそうです。上記の結果から考えると、井の頭池には陸封型が多い気がしますが、両側回遊型のテナガエビの特徴だという、とても長い「手」を持つオスも見つけ、明確なことは分かっていません。

残念なこと、子供たちにはアメリカザリガニのほうが圧倒的に人気です。テナガエビ科の魅力が分かる大人にお勧めしたいのは、日没後、岸辺の水中を弱めのライトで照らしてみることです。テナガエビもスジエビも目が赤く光るので、岩の上などで活動中のエビたちを見つかることができます。



夜活動するテナガエビ

33

春の兆し

「楽園はよみがえるか!」



カイツブリは、得意の潜水で小魚やエビを捕まえる。小さな水鳥です。池や川にカッパルで縄張りを作って暮らし、子育てをします。

冬の間に、カイツブリが水際の草や池の杭を丹念に見て回るのをよく見かけました。かいぼり効果で数が増えたとはいえ、小魚やエビは物陰でほぼ冬眠状態なので、潜水して見つけ出すのは大変です。虫を採すほうが労力対効果が高いでしょう。水生動物館のカイツブリは潤沢に与えられるモツゴを満腹でも追いかけて捕え、食べずに放置することがあります。そんな遊びは池のカイツブリには考えられないことです。井の頭池で冬を過ごした3ペアはいずれも仲が良好でしたが、ペア間の争いはあまり見られませんでした。その余裕がなかったからでしょう。

2月14日に調べたら、これまでの3ペアと1羽以外にカッパルがもう1ペア増えていて、縄張りをめぐる争いが激しくなっていました。春の兆しです。冬の間にカッパルを維持したペアは繁殖開始が早いです。似た状況だった2年前は最初の産卵が2月28日でした。この号が出るころには、産卵の知らせが聞けるかもしれません。



縄張り争い

井の頭かんさつ会 田中 利秋 http://tnt-lab.eco.coocan.jp

## 『井の頭公園いきもの図鑑』

●四六判変型256頁(予定)

『井の頭公園いきもの図鑑』(高野丈)は、現在井の頭公園で見られる生き物たちを紹介する図鑑です。市街地に囲まれていて、その中からうじて残されている自然環境の井の頭公園。その孤島のような緑のオアシスが、多くの生きものたちの拠り所となっています。本書を通じて身近な公園にいる生き物たちを知っていただき、この公園の魅力と今後の公園のあり方を考えていただければと思います。



御殿山を象徴する鳥アオゲラ

絵せのうさここ 文瀬能けい子

せのうさここ 1975年 盛岡市で生まれる。小6で三鷹へ転校。アニメ動画から絵本に進む。三鷹市在住。瀬能けい子さんは母親。

# 時代を超えて続く 弁天さんの春の例大祭

弁財天の例大祭は、徳川家光の時代に雨乞いのご利益があったときから続けられていたと伝えられる祭禮です。弁天堂の外ではお囃子内には荘厳なお経が響き、毎年多くの人が出で賑わいます。今年は4月8日(土)に大祭、9日(日)に護摩供養が予定されています。どんな所縁のある大祭なのか、紐解いてみましょう。

◀ 前日までに売店で申し込むと、護摩供養されたお礼を頂けます。



▲ 三鷹市内で祭囃子の保存活動をしている会が、毎年お囃子を披露。

時は、寛永8(1631)年の夏。早魃(かんばつ)で「池中渴して一滴の水なし」という状態になったと伝えるのは、「神田御上水原井之頭辨財天略縁起」です。弁天堂の持ち寺である大盛寺の、寛永15年の記録とされています。私の手元にあるのは、以前お守り売り場で手に入れたリーフレットに、活字で印刷された「略縁起」です。早魃に際しての記述を見てみましょう。

「大猷院様(※1)万民をあわれみたまひ、東叡山(※2)慈眼大師(※3)を請し、池水湧沸の修法を仰せられ、近郷の僧尼数百人を集め、七日の間七カ所の水加持修業ありければ、こつぜんとして雲霧大虚を包み、雷電氷雹沛然として波浪池中に巻き、龍水活潑として七カ所の加持口よりみなぎりいで暫時に瀾瀾してあたかも大湖のごとくなりければ、万人大師の行徳を仰ぎ、今に毎年四月八日より同十五日まで水加持修業この地の祭禮として怠慢なく祈願成就せしむものなり。」

(※1)の大猷院(いゆういん)は、家光の法名です。(※2)の東叡山(とうえいざん)は、上野の寛永寺の山名。(※3)の慈眼大師(じげんだいし)は、徳川家康、秀忠、家光の三代の將軍の帰依を受け、普琳を務めた天海大僧正で、江戸城の鬼門の場所に寛永寺を建立し、後に日光東照宮の造営を差配したことも知られます。

安田知代

安田知代(やすだちよ) 編集者・ライター、「井の頭公園」ガイドブック「懐かしこの街」(昭和42年)編集者。

## 私と井の頭公園 その33

### 戦時中水族館でメダカを増やし 防火用水のボウフラ退治

須田孫七(杉並区在住)

現在、ぶんしん出版で「井の頭公園100年写真集」を制作している。貴重な写真が集まっているが、その当時のことを詳しく知りたくて何人かお会いした。その一人、須田孫七さんは、本コーナーのその4で紹介したが、さこに興味ある話が聞けたので再び登場を願った。

この茶店知っていますよ。祖母と中之島の動物園の帰りにお昼をここで食べるんです。バンコクの水レストランのように池にせり出していました。足が悪かったので、危ないからと夫みたいに柱からひもをつけられていました。おひなりさんを食べました。戦時中その茶店の横に不発弾が落ち、戦後掘り出されました。池尻の天然プール(注1)にも入りました。子供用だったと記憶していますが、とにかく水がきれいだからのどが乾いたらプールの水を飲みましたよ。魚もいました。

戦時中は、木村さん(第三代井の頭自然文化園長木村四郎氏)の指示で、中之島の水族館の通路でメダカを増やすを手伝いました。各地の防火用水の中に入れてボウフラ退治をしようという事です。増えたメダカをバケツに入れて防火用水に入れて行きました。そのメダカの世話や丹頂鶴などの生き物の世話を豊芸学校にいた僕たちがやっていたわけです。戦時中といえは、中島飛行機が空襲でやられたせいか、水族館にゼロ戦のエンジンを隠しているのを見ました。油紙で包んでびっちり詰め込んでいて、兵隊さんが警備していました。また、御殿山の松脂を採ったことは有名ですが、その根元の周りの絨毯状になった落ち葉や植物を切り取って大八車で調布の飛行場まで運びました。掩体壕(えんたいごう)(注2)の屋根にかぶせてカモフラージュに使ったんです。

そういう仕事は、また招集されてこない若い我々の担当でした。

(すなまじしち 東京大学総合研究博物館研究事業協力者)

(聞き手・川井信良、写真・宮川和久)

(注1) 1921(大正10)年に井の頭池の池尻に作られた天然プール。  
(注2) 戦闘機を米軍の空襲から守るための格納庫。武蔵野の森公園に2基保存されている。

川井信良(かわいしんりょう) 70年代80年代に、「三鷹の山」「三鷹の川」(まとむねびや)を買取かきかたかたを営む。



池の西北側、現在ある藤棚の東側にあった茶店。(徳田東助氏撮影)



東京市初めてのプール。ひょうたん橋の東側の池は子供用。(東京都公園協会提供)



写真 古賀 親宗(こが もとりの) 1983年 福岡県柳川市生まれ。三鷹市在住のフォトグラファー。

## 第12回 | 級渡邊安浩 のいのけん受験講座

第6回 いのけん 試験の日程 が決まりました。

井の頭公園検定試験は、今年の井の頭恩賜公園創立100周年をもちまして終了となります。そこで、今回2級に合格された方にも1級にチャレンジできるように、試験の日程をずらししました。3・2級は9月に早まります。

- 3・2級試験 平成29年9月10日(日) 会場：三鷹産業プラザ
- 1級試験 平成30年1月28日(日) 会場：武蔵野商工会館

受験直前講座の日程 も決まりました。

いのけん受験に欠かせない受験直前講座も試験の日程に合わせて開催されます。3・2級講座は、8月開催となりますのでご注意ください。それでは皆さん、1級目指して頑張ってください。

- 3・2級講座 平成29年8月5日(土) 会場：武蔵野商工会館
- 1級講座 平成29年12月9日(土) 会場：武蔵野商工会館

詳細は、今後発行される「いのけん受験申込書」または「いのけんHP」を参照願います。

▼ 胴長を着た「かいぼり隊」のメンバーが大活躍。



よみがえれ! 井の頭池 33

たくさんの方の知恵と力が  
報告会で結集!

去る1月28日に三鷹市公会堂「光のホール」で「かいぼり報告会」未来へつなごう、湧水の池が開催されました。参加者は総勢約370名。湧水の専門家の基調講演を皮切りに、多面的な活動報告が行われ、内容の濃い休日の午後となりました。

会場では、「井の頭かいぼり隊」のみなさんが胴長姿で運営に当たり、ハートフルで和やかな雰囲気醸成が醸し出されていきました。報告からも、ボランティア市民、NPO団体、行政職員、専門家がそれぞれの立場で前向きに協力していることが感じられました。参加者からは「感動した」という感想も。前2回のかいぼりの成果と学びを結び、来冬の3回目、そして未来につなげたいという熱い思いを込めて編まれた資料集も当日配布されました。「井の頭恩賜公園100年実行委員会」のWEBサイトでダウンロードできるので、ぜひ読んでみてください。

## 『いのきちさん』について

都立井の頭恩賜公園が2017年5月に開園100周年を迎えます。「いのきちさん」は、もうすぐ100歳を迎える井の頭公園に、感謝の気持ちを込めて、地域の市民と企業と団体の協力により発刊された100周年カウントダウン新聞です。名称は井の頭公園の「いの」、隣接する吉祥寺の「きち」、井の頭池が市内となる三鷹市の三「さん」を並べたものです。(奇数月1日の隔月発行です)



スマートフォン対応

「いのきちさん」のホームページができました! 更新中!  
<http://www.inokichisan.com/>

「いのきちさん」の感想やお問合せはメールでも受付けています。  
✉ [inokichi@bun-shin.co.jp](mailto:inokichi@bun-shin.co.jp)

「いのきちさん」を置いていただける所を募集しています。



この印刷製品は、環境に配慮した製材工場「GREEN PRINTING JPN」で製造されています。P-010010